

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成 28 年度第 6 回 理事会議事録

【開催日時】平成29年1月20日（金曜日）14:00～16:00

【開催場所】神戸ポートピアホテル 南館 ルビー

【出席した理事】田口敏彦、岩崎幹季、大川 淳、川上 守、島田洋一、竹下克志、種市 洋、
徳橋泰明、永島英樹、中村博亮、中村雅也、根尾昌志、波呂浩孝、前田 健、
山下敏彦

【欠席した理事】山崎正志

【出席した監事】加藤文彦、松永俊二

【議事の経過の要領及びその結果】

田口敏彦理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. 会員審査（10～12月分）

島田理事が、10～12月の会員審査結果を示し、承認を求めた。各理事は、慎重に審議し、全員を承認した。

2. 定款等検討委員会より：COI 委員会からの細則変更

徳橋副理事長が、COI 細則変更、プログラム委員会および社会保険等システム検討委員会名の修正ならびに英文誌編集委員会の追加について説明がなされた。一同検討の結果承認した。

3. インセンティブ付与における内規の作成について

大川理事が、学会顧問税理士から、学会主導研究などへの調査協力についての金銭的インセンティブに関する内規作成の進言があったと報告した。各理事は、慎重に審議し、内規作成を承認し、徳橋副理事長が、定款等検討委員会にてたたき台を作成することとなった

4. 診断評価等基準委員会より：JOACMEQ、JOABPEQ 反応性検証の論文について

川上理事が、JOACMEQ、JOABPEQ の反応性検証の論文について、Journal of Orthopaedic Science (JOS) に投稿中あるいは予定であるが、オープンアクセスとするための予算を申請したいと発言した。一同検討の結果、承認した。

5. 英文誌編集委員会より：英文誌 SSRR の現状と H29 年度予算について

根尾理事が、1月27日にオフィシャルジャーナル英文誌『SSRR』が発刊になると報告し、来年度の予算について説明した。査読の拒否が多いため、学会評議員の査読意向確認を行って Editorial Board を絞り込み、1年間は日本語での査読も可とする提案がなされた。各理事は、この提案や予算について慎重に審議し、一同承認した。

6. 倫理委員会より：脊椎インストゥルメント登録制度の倫理審査について

永島理事が、日本脊椎インストゥルメンテーション学会が実施予定の登録制度について、学会内部に倫理委員会を設けていないため、当学会の倫理委員会での倫理審査を行いたいと提案した。一同検討の結果、承認した。

7. 倫理委員会より：脊椎インストゥルメント市販後調査（委託研究）について

永島理事が、脊椎インストゥルメンテーションの市販後の調査について、高橋寛委員長充てに、病院や学会の倫理委員会を通さずに、医師個人や教室が企業から直接業務を請け負っている場合があるとの情報が寄せられていると説明した。当学会、委員会の対策について、各理事は慎重に審議した結果、継続議題となった。

8. 海外からの入会申し込みに対する対応

大川理事が、外国人の当学会への入会推奨について提起した。一同検討の結果、メンバーシップ・コンプライアンス委員会にて申込書の作成などを進めることとなった。

9. その他

・ **専門医制度委員会より：脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設登録 委員会審査結果について**

1) 専門医基幹研修施設の合否について

波呂理事が脳外科とともに進めている脊椎脊髄外科専門医資格の基幹研修施設について専門医制度委員会内での審査結果を報告した。1月30日月曜日の脳外科との専門医WGでの審議の上、確定することになった。

2) 第1回専門医試験の実施と受験者について

波呂理事が、第52回日本脊髄障害医学会開催中の2017年11月17日夕方に三井ガーデンホテル千葉で第1回専門医試験を予定していること、指導医を2回更新している会員100名程度の受験者数となることを報告した。一同検討の結果、承認した。本件に関しては脳外科のコンセンサスを得ることになった。

3) 専門医についてのシンポジウム実施について

波呂理事が、2017年4月の当学会第46回学術集会において、専門医WGによるシ

ンポジウムを開催することを報告した

4) 専門医基幹施設の要件について

日整会の専門医施設要件には「学会で行う調査等に協力する」と明記されているので、当学会でも明記してはどうかという根尾理事より提案について一同検討の結果、当学会でも同様の要件を追加することを承認し、脳外科とのコンセンサスを得ることになった。

審議・報告事項

1. 次々期学術集会会長決定の件

田口理事長が、次々期学術集会会長について1名の立候補（松山幸弘、浜松医科大学整形外科）を承認し、4月の評議員会にて選任すると報告した。

2. 新技術評価検証委員会より：ACR・胸椎用XLIFのガイドライン

岩崎理事が、「XLIF手術実施に関するガイドライン」「XLIF、ACR手術のガイドライン」「XLIF THORACIC手術のガイドライン」を示した。一同査収の結果承認した。

3. 新技術評価検証委員会より：新規技術研修の申請および報告制度について

岩崎理事が、ACR向け研修実施について報告した。一同検討の結果承認した。
大川理事が、新技術研修の申請様式について提示し、新技術関連の研修を実施する際の方法を説明した。事務費については当該新技術を提供する企業に負担してもらう方向で検討したいと述べた。

4. 新技術評価検証委員会より：患者レジストリの構築について

岩崎理事が、LIFの継続調査について報告した。
後発品でも新技術に関しては学会と企業が連携して、研修を行う必要があることを確認した。
頸椎人工椎間板関連では、PMDAから脳外科と共に検証を進めるよう依頼があったため、適正使用のガイドラインを作成中であるとの説明がなされた。
新技術についての患者レジストリシステムについての内容が示された。その初期費用としての予算が提案された。一同検討の結果承認した。レジストリの管理のための新たな委員会を立ち上げることとなり、種市理事に担当理事を委嘱することになった。

5. 安全医療推進委員会より：次回合併症調査について

根尾理事が、2011年に安全医療推進委員会で行った合併症調査について、JOS、SSRRに掲載予定であると報告した。回収率を上げるため、次回調査は、脊椎脊髄外科専

門医基幹研修施設にのみ義務に近い形として行い、その期間は1か月間のみとする。統計処理は、別途見積もりの上、毎日学術フォーラムに依頼したいと提案した。一同検討の結果、承認した。

6. 専門医制度委員会より：脊椎脊髄外科専門医について

波呂理事が、脊椎脊髄外科専門医事務局を毎日学術フォーラムに委託することが決議されているとし、契約書のひな型を示した。修正点等があれば波呂理事まで連絡することとし、一同了解した。

7. 指導医制度委員会より：H28 指導医審査結果および新規申請時の業績について

前田理事が、今年度の指導医審査結果を示した。一同検討の結果、指導医制度委員会での審査結果を承認した。指導医に筆頭の業績がないのは問題であるとの見解で一致し、指導医規定の改定が指示された。前田理事が、指導医制度委員会のほうで原案を作成することになった。また、指導医制度委員会にて、指導医Q & Aを更新したことを報告した。

8. プロジェクト委員会より：「慢性腰痛症に対する薬物療法の臨床経済研究」の進捗状況について

山下理事が、慢性腰痛症に対するプロジェクトは最終解析の段階であり、4月の当学会学術集会での発表を予定していると報告した。新しいプロジェクトとして「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物療法の臨床経済研究」を検討していることが示された。

9. その他

・第91回日本整形外科学会学術総会シンポ・パネル案の件

大川理事が、3案が出され、Eメールで審議の結果、最多数の1案を承認し、日整会総会事務局へ回答することになったと報告した。

・国際委員会より

当学会学術集会でのイングリッシュセッションについて

中村雅也理事が、次回のアジアトラベリングフェローの採択とイングリッシュオーラルセッションとイングリッシュポスターアワードについて報告した。さらに外国人の応募を増やすために、外国人のための補助金やAPSSなどの学会への依頼などについて提案した。一同検討の結果承認した。

Spine Across the Sea (SAS) の件

北米脊椎外科から2年に1度実施したいとの希望があったため、対応可能かどうか継続議題となった。

平成 29 年 1 月 20 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 田口敏彦

監 事 加藤文彦

監 事 松永俊二